

遭難者 ドローンで捜索

空から熱感知 15分で発見

【幕別】町などは9月28日、町忠類の山林で、遭難者をドローン(小型無人飛行機)で捜索する訓練を行った。ドローンの熱感知センサーを使い、周囲との温度差から遭難者を発見することが可能。ドローンの活用は実証段階だが、発見までの時間短縮や捜索に当たる人たちの負担軽減にもつながると期待されている。



ドローンを使った行方不明者の捜索訓練を見守る関係者

夜間や二次被害防止に期待

幕別町など訓練

町は2018年、大樹、広尾の両町とともに、ドローンを使った鳥獣駆除・捕獲の実証実験を行っているキャリオ技研(本社名古屋、富田茂社長)と連携協定を締結。同社は、関連会社のシユラテクノロジーの本社を大樹町に置いている。

3町と同社は、防災や環境保全など多分野にわたる連携を確認しており、今回の捜索訓練は協定に基づく取り組み。同社として、ドローンを使った遭難者の捜索訓練に参加するのは初の試みとなる。

この日は昼ごろからキノコ狩りに入った男性2人が行方不明になったと想定。2人はそれぞれ、枝葉で上空から見えない場所と、見える場所に待機した。

訓練では周囲を見渡せる小高い丘に現地本部を設置、ドローンで付近を約6分捜索。ドローンが本部に戻った後、モニターで熱探知の撮影情報を解析し、周囲と温度の異なる位置を特定。再びドローンが該当地点上空に飛び、捜索班がドローンを目印に現場へ移動し2人を発見した。ドローンの起動から約15分で救助することに成功した。

現地本部長として訓練を見守った飯田晴義町長は「夜間の捜索では、よりドローンが効果を発揮するのではないかと期待。富田社長は「人海戦術で探すよりも捜索時間が短くなり遭難者の二次被害を防げる。消防との連携なども確認できた」と手心えを感じていた。(本田龍之介)

▶動画は電子版で